

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 94人 |
| ② 算数 | 94人 |

5 留意事項

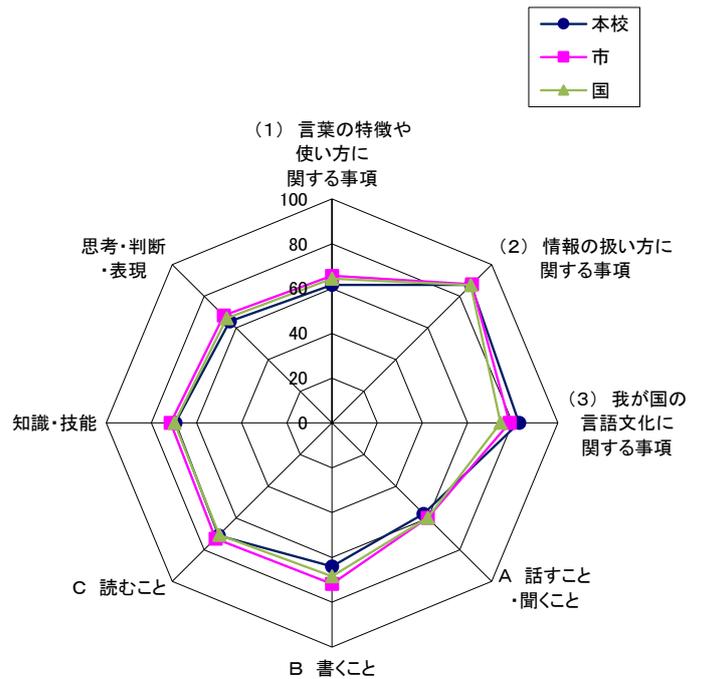
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	61.6	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	87.1	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.8	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	57.3	59.9	59.8
	B 書くこと	64.0	71.8	68.4
	C 読むこと	71.0	72.9	70.7
観点	知識・技能	69.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	64.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

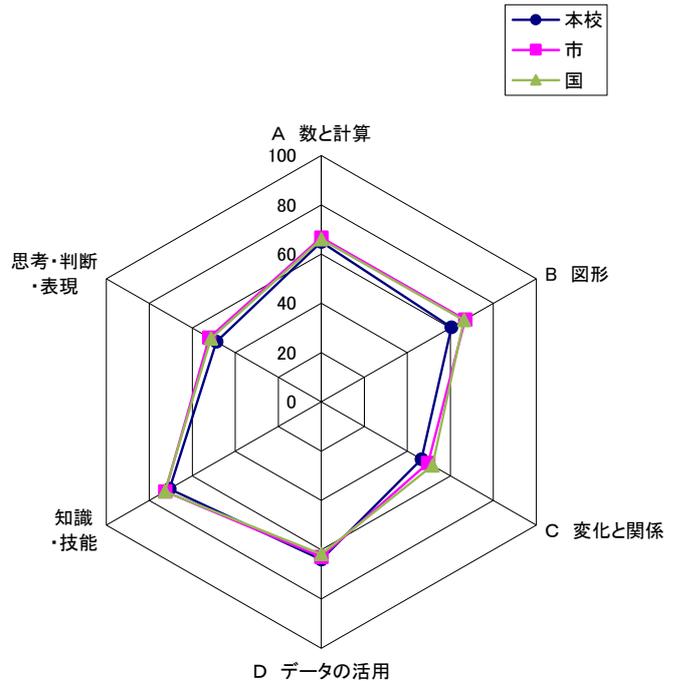
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、61.6%で国・市の正答率を3～4ポイント下回っている。 ●「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかをみる」問題では、全国平均を6.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までに学習した漢字については、振り返りや漢字練習などを活用し、定着を図る。 漢字だけではなく、文章がどのように構成されているのかを確かめる問題を定期的に取り入れ、主語・述語の関係性が明確に理解できるよう指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、87.1%で国・市の正答率と同程度である。 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を問わず、様々な情報を理解するために図や表を用いて、情報を整理する場を設定し、力を養っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、82.8%で国・市の正答率を4～8ポイント上回っている。 ○「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」問題では、全国平均を8.2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や、図書室の時間を活用して、読書の時間を確実に確保し、日常的に読書に親しめる環境を整えていく。そして、読書が自分の考えや価値観を広げるにつながるということを、教師が伝えていくよう努める。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、57.3%で国・市の正答率を2ポイント下回っている。 ●「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題では、全国平均を4.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動において、話し手と自分の意見の考えを比較しながら、意見をまとめることができるよう、指導していく。その際、思考ツールなども活用し、自分の意見をまとめることに慣れていくようにする。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、64.0%で国・市の正答率を4～7ポイント下回っている。 ●「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる」問題では、全国平均を6.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実や意見を目的に合わせて書くことができるよう、様々な課題に応じて文章を書く機会を用意し、指導していく。自分の考えが伝わるように、理由なども付け加えて書くように声掛けをしていく。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、71.0%で国・市の正答率と同程度である。 ○「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」問題では、全国平均を2.7ポイント上回っている。 ●「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題では、全国平均を、1.3ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語では、登場人物の心情を描写をもとに捉えることができるよう情景描写に着目したり、書かれている表現から人物像を想像したりする力が身につくよう、様々な表現に触れさせていく。 教科書やテスト等で文章を読む際には、自分の必要となる情報に線を書く活動を継続して行っていく。

宇都宮市立豊郷南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.9	66.7	66.0
	B 図形	60.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	46.6	49.6	51.7
	D データの活用	64.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	70.6	72.6	72.8
	思考・判断・表現	48.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、64.9%で国・市の正答率と同程度である。 ●「$540 \div 0.6$を計算する」問題では、全国平均を9.9ポイント下回っている。除数が小数である場合の除法の計算に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリル、学習プリント、一人一台端末のドリル学習などを活用し、整数や分数、小数などの混じった計算を正確にできるように指導する。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、60.5%で国・市の正答率を5～6ポイント下回っている。 ●「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」問題では、全国平均を6.4ポイント下回っている。また、この問題の無解答率は10%以上だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の性質を再確認するとともに、見取図や展開図などについての理解を深められるように、復習や発展問題に取り組む時間を確保する。 ・図形と式を関連付けて、式の意味を児童同士で説明し合ったり、面積や体積の求め方をノートに記述したりする活動を取り入れていく。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、46.6%で国・市の正答率を3～5ポイント下回っている。 ●「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」問題では、全国平均を5.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう考えるのか、話し合う活動を通して、判断した理由を考える場面を設定し、筋道を立てて説明する力を育てるようになる。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、64.0%で国・市の正答率と同程度である。 ○表やグラフなどから、必要な数値を読み取ることがよくできている。 ○「折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」問題では、全国平均を4.4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も社会科や理科など、他教科との関連を図りながら、必要なデータをグラフに表したり、グラフを読み取ったりして、統計的な問題解決の力を養っていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いには、90.9%の児童が肯定的回答をし、全国平均を6.8ポイント上回った。児童は、自分に自信をもって学校生活を送ることができている。これからも、自己肯定感を高められるように、意図的に場の設定や声掛けを行っていく。

○「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いには、83.9%の児童が肯定的回答をし、全国平均を16.8ポイント上回った。教育相談やクラスでのコミュニケーションを通して、児童一人ひとりのをよく理解し、信頼関係を築いていることが考えられる。この調査結果を励みに、現状の良好な関係性を維持し、深めていく。

○「学校に行くのは楽しいですか」の問いには、90.9%の児童が肯定的回答をし、全国平均を6.1ポイント上回った。9割以上の児童が楽しく登校していることが伺える。今後も児童の様子をよく見守ることで、友達関係の変化やいじめの兆候、児童の困り感などを察知し、どの児童も学校に行くのが楽しいと思えるように、さらなる支援を続けていきたい。

○「PC・タブレットなどのICT機器を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の問いには、87.9%の児童が肯定的回答をし、全国平均を8.7ポイント上回った。高い肯定的割合となった背景には、授業だけでなく、普段からICT機器に触れる機会が多く、児童がICT機器に慣れ親しんでいることが考えられる。ICT機器を使った活動が、児童の学習意欲を高め、積極的に自分の考えを表現しようとする意欲を育てていると考えられるので、今後も継続していきたい。

○国語に関する質問については、全国の肯定的回答率を上回っているものが多い。特に、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いには、100%の児童が肯定的回答をした。児童が国語の学習の大切さを強く感じていることが伺える。本校児童が学習に対し誠実に向き合っている気持ちを大切に、指導を継続していく。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、肯定的回答が全国の平均を19.1ポイント下回った。ICT機器を活用して自分の考えを伝えることができる児童の割合は全国平均を上回っているため、自分の考えが相手に伝わりやすい話し方を身に付けられるよう、話し合い活動や発表する場を意図的に設けていきたい。

●国語の調査の「解答時間は十分でしたか」の問いには、「十分だった・ちょうどよかった」という回答が、47.8%で全国平均を20.7ポイント下回っており、問題の解答に戸惑っている様子が見られた。この設問に無回答の児童も多いので、一概には言えないが、記述の問題に対して、児童の苦手意識が見られ、問題の解答率にも影響が表れている。日頃の日記指導やテスト等に文章で答える場面を有効活用していきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な学習を通して、表現力を高める国語科指導に取り組む。 特に、自分の考えをもち、書く力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語「書くこと」の領域において、国・市の平均と比べ、4～7ポイント低い。 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」問題では、全国平均を6.1ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 国語と算数の両教科において、文章で書く問題について、「書く問題で解答しなかったり、解答を途中であきらめたりしたものがあった」という児童が多い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に合わせて、文章を書く経験を多く取り入れる。 ふり返りを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や知識と合わせながら、接続語や文末表現に気を付け、事実と感想、意見とを区別して文章を書けるようにする。 観点を提示した上でふり返るなどして、多くの視点から自分の考えを書けるようにしたり、条件に合わせて書く練習をしたりして、書く力を伸ばしていく。